

2020年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（映像・現代文化論研究室） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>問題Ⅰ 日本の近現代文学、および映画全般から、体系的知識のうえで諸事象の問題点を正しく捉えられているかを問う。</p> <p>問題Ⅱ A 村上春樹の小説を契機に、近代文学での音楽の位置づけにつき、正しく敷衍できるか、その能力を問う。</p> <p>問題Ⅱ B 黒澤明の映画作品から、映画全般につき音楽や音声の果たしている役割について理解できているかを問う。</p>

2020年度
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 映像・現代文化論 全7枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 7枚、解答用紙 4枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
- ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。

問題Ⅰ

次の1～6の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各400字程度）。

1. 上田敏による翻訳と西洋文芸の紹介の特徴について、複数の著書名を挙げて説明しなさい。
2. 大正から昭和初期にかけての時代小説の成立と展開について、作家・作品名を挙げて述べなさい。
3. 「引き揚げ体験」を描いた日本語の文学作品について、具体的に論じなさい。
4. エイゼンシュテインによる、日本文化に基づいた映画モンタージュ論について説明しなさい。
5. ナチズムの台頭によって亡命を強いられた映画人について、具体例を挙げて述べなさい。
6. 1990年代から2010年代にかけて、日本の「女の子映画」（少女や若い女性を描く映画）がどのように変遷したか説明しなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は、山本亮介『小説は環流する——漱石と鷗外、フィクションと音楽』（水声社、2018年）の一節である（一部表記を改めた箇所がある）。（1）この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。（2）この文章の論旨に留意しつつ、日本近代文学における音楽の位置づけについて、具体的な作家・作品を挙げて論じなさい（800字程度）。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学院事務局の窓口で閲覧してください。

出典 山本亮介『小説は環流する——漱石と鷗外、フィクションと音楽』（水声社、2018年3月）
166-170頁

問題Ⅱ B

次の文章は、ポール・アンドラ『黒澤明の羅生門——フィルムに籠めた告白と鎮魂』（北村匡平訳、新潮社、2019年）の一節である（設問の都合上、省略した箇所がある）。（1）この文章を要約しなさい（250字程度）。（2）音声や音楽が決定的な役割を担っている映画につき、具体的な事例を出して論じなさい（800字程度）。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学院事務局の窓口で閲覧してください。

出典 ポール・アンドラ『黒澤明と羅生門——フィルムに籠めた告白と鎮魂』（北村匡平訳、新潮社、2019年5月）254-258頁

2020年度（前期） 映像・現代文化論 全7枚のうち6枚目

2020年度（前期） 映像・現代文化論 全7枚のうち7枚目